

Topic 36

米国バージニア州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) バージニア州の VRP

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、バージニア州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところです

バージニア州は、先週ご紹介したメリーランド州の南に位置しています。米国に加入したのは1788年6月25日。州の総人口は約760万人弱（2005年）、人口密度は約70人弱/km²、州都はリッチモンド市、州最大都市はバージニアビーチ市です。

州土は、チェサピーク湾によって東西2つのゾーンに分かれていて、西側が「バージニア州の本土」、東側が「バージニアの東岸」と呼ばれています。その切れ目をつなぐ役目を果たしているのが世界一長いブリッジトンネル「チェサピーク湾ブリッジトンネル」。絵葉書などでその写真をみたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

バージニアビーチ市といえば、米国内で名の知れたリゾート地。大西洋に面した長〜いビーチ、そこに立ち並ぶ数え切れないほどのホテルやレストラン、白い砂浜に映える色とりどりの水着を着た観光客や地元のサーファーさんたちが真夏の太陽を浴びながら海辺で楽しい時間を過ごしている様子が目に浮かびます。ちなみに、この同市は世界一長いリゾート海岸を持つ都市としてギネスブックに掲載されています。

観光業はもちろんのこと、タバコ産業も盛んです。ここには米国を拠点とする Altria グループの世界最大のタバコメーカー「フィリップ モリス」の本拠地があります。そういわれてみれば同州の名をちなんで「Virginia Slim」というブランドがありますよね。

2) バージニア州の VRP とブラウンフィールド プログラム

さて、本題のブラウンフィールドです。同州 VCP の正式名称は「自主的改善プログラム（VRP: Voluntary Remediation Program）」。1997年から州の環境部廃棄物プログラム調整課によって運営されています。基本的なプログラム構成要素（例えばインセンティブや環境責任保護の仕組み）は一通りそろっており、特記すべき点はみあたりません。先週のメリーランド州同様、浄化目標には複数の選択肢が用意されています。（以下の3つ）

- ① バックグラウンド（汚染される前の状態）を浄化目標とする。
- ② 米国環境保護庁第3地区（USEPA Region3）の目標にあわせる

③ 対象サイトごとにリスクベースの目標値を設定する。

3のようにリスクベースで浄化修復作業を行うということは、即ち対象地に汚染が残ることを意味します。ですからそれらの土地を再利用するには、必然的に法的メカニズムである Institutional Control (IC) を利用して人の健康や生活環境を守っていく必要性が生じるはずで
す。2005年8月3日時点で、同州 VCP を通して浄化が完了したサイト数は 111 件。さて、それらの土地にはどのような IC が適応されているのでしょうか？今回、それを分析するにふさわしいデータが入手できたので、以下にその分析結果をご紹介します。

1. 浄化完了サイト 111 件の過去の利用形態

- ・工業用地 46%
- ・ドライクリーニング店 23%
- ・廃棄物埋立地 12%
- ・その他 19%

2. IC の適応状況

- ・適応されている 82%
- ・されていない 18%

3. IC が適応されている場合は、どのような IC が適応されているのか

- ・地下水利用が規制されている 76.6%
- ・住宅地として利用することが規制されている 50.5%
- ・掘削することが規制されている 15.3%
- ・その他の事項おける規制がかかっている 22.5%

(以上の結果をまとめるのに、ERS 環境部の本多真美さんにご協力いただきました。ありがとうございます。)

いかがでしょうか。VCP を通して浄化完了した 80%以上のサイトに IC がかかっています。つまり、浄化目標①「バックグラウンド」を目標にして浄化されたサイトはマイナーで、現実にはリスクベースで浄化しているサイトがほとんどのようですね。特に地下水の浄化は VCP では対処していないようです。また、住宅地として再開発できないサイトもかなりあるようです。

もちろん、バージニア州を全米 VCP 浄化結果の代表として話を進めることはできませんが、VCP のアウトプットの一例をみる事ができました。ウェブサイトにもちょっと掲載されていたデータを使ったシンプルな分析ですが、結構おもしろい傾向がつかめます。これも情報が開示されているからできることだと思います。

来週は、ウエストバージニア州のVCPをご紹介します。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -- 「The Old Dominion (1663年イギリスのチャールズ2世がバージニアをイギリスやスコットランドと同等の領土 (dominion) としたことから)」「Mother of Presidents (建国当時の大統領はこの州出身が多かった)」「Mother of States (昔々は、いまのウエストバージニア州、ケンタッキー州から、ずっと北はウィスコンシン州やミネソタ州までをバージニアと呼んでいたそうです)」「Down where the South Begins (ここから南部)」

事例紹介 -Cape Charles (ケープチャールズ;バージニアの東岸にあります):Eco-Industrial Park。1994年にアメリカで始まった地域再生事業で、資源の有効利用と公害の防止を重視した、ちょうど日本の「エコタウン」のような事業です。Cape Charlesは初年度事業の4つのうちの1つに選ばれました。ここには、全米最大という太陽光発電装置付きの建物があり、ランドスケープの観点からウェットランドも造成され、自然光照明や雨水浸透マスなどの工夫も盛りだくさん。2001年には、ドイツ籍の風力発電事業者が本社をここに移転しています。このParkのクリーン基準を達成したテナントには、賃料の値引きという恩恵まであるそうです。おっと、ブラウンフィールドですが、このPark(約80万㎡)の真ん中あたりには市が所有する廃棄物処分場(約10万㎡)があり、この環境評価のために助成金が使われました。「この助成金がなかったら、このParkもなかったよ」とは代表者の弁です。

(<http://www.epa.gov/swerosps/bf/success/capecharles.pdf>)